

---

領域名：教養科目・専門関連科目

報告者：金城芳秀

---

**教育及び実践の課題**

---

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミックに伴い、教員の多くは従来の対面教育に代って遠隔で授業を運用した。学生はオンライン講義あるいはオンデマンドでの学習に取り組まざるを得なくなり、孤独と不安に耐えながら、学内対面授業の再開を待っていた。これまでとは異なり、インシビリティ (incivility) がみえやすい学業体験といえそうである。レジリエンス (resilience) は、忍耐力 perseverance、自立 self-reliance、意味 meaning、平静 equanimity および実存的孤独 existential aloneness によって特徴づけられているが、ストレスやインシビリティと、どのような関係にあるのだろうか。

---

**活用した論文の概要**

---

Smith et al (2022) は、2020 年 9 月より 5 週間、米国南西部州の看護学部学生 (3,540 人) を対象に断面研究としてオンライン調査を実施した (回収率 19%)。欠損値 (185 人) を除く 490 人を分析対象にした順序回帰分析から、ストレス (10 項目; PSS10, Cohen et al, 1983) とインシビリティ (15 項目; INE-R, Clark et al, 2015) との間には正の相関関係が、レジリエンス (14 項目; RS-14, Wagnild & Young, 1993) とインシビリティの間には負の相関関係が得られた。新しい知見として、レジリエンスが高いとインシビリティの頻度やストレスの影響を抑える防御的な効果が示唆されたが、高ストレスグループに限定すると、レジリエンスの防御効果は示されなかった。

---

**教育及び実践への活用**

---

看護教育においては、シミュレーション、認知的リハーサル (cognitive rehearsal)、安全医療推進 (Team STEPPS) などはレジリエンスを育む学習機会としての重要性が指摘されている。コロナ禍の収束が曖昧な状況ながら、本学では計画的に新カリキュラムを導入した。新旧カリキュラムの同時進行に伴う多用さと心理的負荷は避けられないが、いまのところ、学生も教員も、差別的／侮辱的な発言、通信に応答なし、不適切なメールなど、重大なインシビリティは起きていないようである。データに基づかない推測であるが、われわれに備わっているレジリエンスはここ数年の通常ではない学業経験のストレスを防御できたのかもしれない。シビリティな相互関係の構築はあらゆる活動の基盤であるが、レポートの作成等に生成 AI が不正利用されれば容認できない状況も生じるであろう。今後、新たなパンデミックのような脅威に曝されても、学問的誠実性 (academic integrity) に価値を置く教育学習環境を達成・維持する必要がある。

---

**参考文献**

---

Smith J.G., Urban R.W. Wilson S.T. Association of stress, resilience, and nursing student incivility during COVID - 19. Nursing Forum, 2022;57:374-81

---